

ISOLAB' 05 体験記

久下勝規 (京都大学原子炉実験所博士課程)
katsu@HL.ri.kyoto-u.ac.jp

2005年の6月29日から7月2日に、生命の起源とアストロバイオロジー 国際シンポジウム ISOLAB '05 が開催されました。開催地はコシヒカリと夏子の酒で有名な日本の新潟県。私は学会への参加と米と地酒を楽しむべく新潟へ訪れました。梅雨時期ということもあり、残念ながら天候はあまり良くなく開催期間のほとんどが雨でした。学会会場は朱鷺メッセという施設で、JR 新潟駅から車で約 10 分、信濃川に面したとても綺麗な会場でした。本学会はこの朱鷺メッセの3Fフロアを借りて行われたのですが、構成はオーラル用の大ホール、その隣の部屋にポスター用ホールの計2つから成り、ポスター用のホールには休憩用のテーブルも設置され、落ち着いてポスターを拝見できる環境でした。

本学会で取り扱われたトピックは、ゲノム、プロテオームに関するもの、アストロバイオロジーに関するものなど様々でしたが、その中で私が最も注目したのは、所属がタンパク質関連の研究室ということもあり、D-アミノ酸に関する講演でした。講演数が少なかったことが少し残念でしたが、どれも D-アミノ酸を知る上で大変参考になるものでした。またアストロバイオロジーというあまり聞きなれない分野の講演も非常に全体像をつかみやすく、生命の起源を知る上で非常に面白い研究であると感じました。印象に残ったのは最終日に行われた公開講演会で、これには市民の方々も多く参加され、内容も大変分かりやすく興味深いものでした。

私自身は D-アミノ酸に関する研究をポスターにて発表させていただきました。多くの方々に質問をいただきましたが、それぞれ質問される方々のバックグラウンドが異なるため、タンパク質とは異なった視点からも様々な助言をいただき、本学会での経験は今後自分が研究を進めていく上で非常に参考になるものであったと感じています。

最後に、本学会にて旅費補助をしていただいたことを深く感謝いたします。